

術体
一人一人が危機意識を
防連

一人一人が危機意識を 市民向け緊急メッセージ

防災学術連携体は22日、
2018年7月豪雨を踏ま
えた市民向け緊急メッセ
ージを発表した。今後も自然
災害が多発するとの懸念を
示した上で、国民一人一人
が災害の危機意識を持ち、
事前防災に努めるよう呼び
掛けた。事前防災の重要性
も説いている。
メッセージでは地球温暖
化の影響により、これまで

豪雨災害がなかった地域でも大規模な水害が起こり得ると指摘。ハザードマップや地域防災計画を参考に、改めて居住地域での被害予想を確認するよう求めた。豪雨災害を受けた九州や四国、山陽地域については、台風や秋雨前線に伴う大雨に警戒するとともに、迅速な避難行動を呼び掛けた。

同連携体は、米田雅子慶応大学特任教授と古谷誠章日本建築学会会長が代表幹事を務め、56の学術団体で組織する。22日に都内で会見した古谷会長は写真は



「行政主導の防災対策だけでなく、自分たちの暮らす地域がどのようなリスクを抱えているかを考えるべきだ」と自助の必要性を強調。災害に強い建築物を提供す

るため、建築家が知恵を出し合っていくとの考えも示した。